

## 事後評価結果（平成15年度）

担当課：関東地方整備局道路部道路計画第一課  
担当課長名：沓掛敏夫

事業名	一般国道140号 雁坂道路	事業区分	一般国道	事業主体	国土交通省 関東地方整備局	
起終点	自：埼玉県秩父郡大滝村大字大滝栃本タキ川 至：山梨県東山梨郡三富村大字河浦字上広瀬	延長	6.6km			

### 事業概要

一般国道140号は、埼玉県熊谷市から山梨県増穂町に至る延長約180kmの幹線道路であり、雁坂峠を挟む約10kmの区間は交通不能区間となっていた。雁坂道路は、この交通不能区間を解消するものであり、延長約6.6kmのトンネル構造の2車線道路である。

### 事業の目的・必要性

雁坂道路は、交通不能区間の解消による地域の暮らしの向上を目的としており、これにより「西関東における広域的な環状ネットワークの形成」、「豊かな自然観光資源を背景とした魅力的な地域づくり」および「医療をはじめとする地域の生活環境の大幅な改善」が期待される。

### 事業概要図



事業の 効果等	事業期間	事業化年度：昭和60年度 都市計画決定：—年度	用地着手：昭和63年度 工事着手：昭和63年度	供用年 (暫定/完成)	(当初—/H10 実績—/H10)	変動	1.0倍
	事業費	計画時 (名目値) — / 447億円 (実質値) — / 454億円	実績 (名目値) — / 447億円 (実質値) — / 454億円			変動	1.0倍
	交通量 (当該路線)	計画時 (暫定/完成)	— / — 台/日	実績 (暫定/完成)	— / 1,911台/日		変動
費用対効果 分析結果 (事後)	B/C	1.1	総費用 (事業費：530億円 維持管理費：51億円)	580億円	総便益 (走行時間短縮便益：449億円 走行経費減少便益：158億円 交通事故減少便益：5億円)	612億円	基準年 平成10年
事業遅延によるコスト増	費用増加額	0億円		便益減少額	0億円		

事業の効果等	客観的評価指標に対応する事後評価項目 ●隣接した日常活動圏中心都市間を最短時間で連絡する路線を構成 <ul style="list-style-type: none"> <li>雁坂道路を利用することにより、秩父市から甲府市間の所要時間が約60分短縮し、西関東における広域的な環状ネットワークが形成された。</li> </ul> ●鉄道や河川等により一体的発展が阻害されていた地区の一体的発展への寄与 <ul style="list-style-type: none"> <li>交通不能区間（雁坂峠）が解消し、交流が可能となったことにより、地域産業の活性化などの地域振興に寄与している。</li> </ul> ●近隣市へのルートが1つしかなく、災害による1～2箇所の道路寸断で孤立化する集落が解消 <ul style="list-style-type: none"> <li>埼玉県秩父郡大滝村の孤立化が解消。</li> </ul> ●災害拠点病院へのアクセス向上 <ul style="list-style-type: none"> <li>埼玉県大滝村から災害拠点病院への所要時間が、約30分短縮された。</li> </ul> <p style="text-align: right;">他7項目について効果の発現が見られる。</p>
	その他評価すべきと判断した項目 ●交流圏の拡大による地域振興支援 <ul style="list-style-type: none"> <li>一般国道140号周辺のまつり見学客が増加。（恵林寺信玄公忌（山梨県塩山市）：約1.4倍に増加、各種行事まつり（埼玉県秩父市）：約1.3倍に増加）</li> </ul>
事業による環境変化	環境影響評価に対応する項目 なし
	その他評価すべきと判断した項目 なし
事業を巡る社会経済情勢等の変化 雁坂道路の供用により新たな物流ルートが形成され、雁坂道路の供用前から山梨県への搬送を行っている埼玉県秩父市にある製造業T社の工場では、山梨県への年間総搬送量（約56,000t）のうち、冬場を除いた約7割の搬送を雁坂道路利用ルートに変え、年間約1,900万円の輸送コストが低減された。 また、雁坂道路や一般国道140号のバイパス等の整備により、工業団地への企業誘致が期待される。	
今後の事後評価の必要性及び改善措置の必要性 雁坂道路の供用により、「開かずの国道」と言われていた国道140号の交通不能区間が解消された。 これにより、「西関東における広域的な環状ネットワーク形成」、「豊かな自然観光資源を背景とした魅力的な地域づくり」、「医療をはじめとする地域の生活環境の大幅な改善」が図られ、周辺地域の暮らしにさまざまな効果もたらされていることが確認された。 雁坂道路の効果は、周辺の道路ネットワークが構築された時点において、さらに効果が発現されるものと考えられるため、今後も注視していく。	
計画・調査のあり方や事業評価手法の見直しの必要性 雁坂道路は、甲武信ヶ岳、国師ヶ岳、金峯山などがつらなる関東山地に位置し、その地形は急峻で、特に埼玉県側は険しい様相を見せており、地形的、地質的に困難な工事が予想された。 そのために、あらゆる視点から調査検討を行い、工事にあたっては、最新の技術を駆使し、安全第一に施工した。予想外の「山はね」現象等の困難にも遭遇したが、現場及びトンネル施工技術検討委員会等の素早い対応によりこれをクリアし、全体としてほぼ順調に進捗した。 今後の同種事業においても、地形、地質等に合わせた最適な施工法の導入やいかなる場合にも対応ができるような体制の整備が重要であると考え。	
特記事項	

※ 総費用、総便益とその内訳は、各年次の価額を割引率を用いて基準年の価値に換算し累計したもの。